

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1027
施設名	玉川保育園
施設所在地	東京都立川市富士見町6-72-1
法人名	社会福祉法人草萌学舎

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

園庭及び園周辺の自然を活かした探究活動

<テーマの設定理由>

玉川保育園ではかねてより園庭及び園周辺の自然を活かした活動を日常的に行ってまいりました。昨年度に引き続き、園を取り巻く「自然」（動植物、昆虫、樹木等）をテーマに、子ども「なんでだろう」「不思議だな」といった言葉を大切にしながら活動を実施しました。それぞれのクラスが、子ども達の興味・関心（なぜ、ふしぎ）を大切に、様々な方向へと活動を発展させていきました。

## 2. 活動スケジュール

2025年4月～2026年3月

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

園庭MAP用台紙（秋冬ver）、観察ケース各種、図鑑（昆虫・植物・魚・星座等）、虫眼鏡、タブレット端末・カメラ、栽培用プランター、野菜苗・球根（ヒヤシンス・クロッカス・チューリップ）・用土・肥料、アゲハ蝶の幼虫を観察できる環境（飼育ケース・山椒の葉）、野鳥用巣箱、磁石・金属探知機（玩具）、プロジェクター・スクリーン（ホール）、ダンボール・アルミホイル（お手製ミニプラネタリウム用）、写真・動画管理用PC、おさかなMAP用台紙・魚の写真素材

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

各クラスが子ども達の興味・関心に応じて活動を発展させ、主な活動として以下を実施しました。

##### ・【しろ組（5歳児）】

昨年度作成した園庭MAP（春夏版）に続き、秋冬版の園庭MAPを作成。落ち葉の色の変化や木の実など、季節で変わる園庭の様子を観察しながら、子どもたちが見つけたものや描いた絵を貼り、季節による自然の変化に気づく活動を行いました。また、野鳥への興味をきっかけに巣箱を設置し、子ども達自身が設置場所を決めながら鳥の様子や鳴き声を観察しました。

##### ・【もも組（4歳児）】

食べ物の「旬」についてみんなで考えたことをきっかけに、「魚」への興味が広がり、図鑑で魚の姿や住んでいる場所を調べ「おさかなMAP」を作成。プロジェクターでホールに海の中を再現する体験活動も実施し、魚の実際の大きさをメジャーで測って確かめました。また、磁石・金属探知機を用いた「くつつくもの・くつつかないもの」の探究活動も行いました。

##### ・【あか組（3歳児）】

宇宙や星への興味から、担任がダンボールとアルミホイルで「お手製ミニプラネタリウム」を作成し、部屋の天井に星空を投影。子どもたちは自分の生まれた月の星座に興味を持ち、星座の絵を描いたり、ミニプラネタリウムの作成にも発展しました。

##### ・【2歳児クラス】

絵本「はらぺこあおむし」をきっかけにアゲハ蝶を飼育・観察し、遊びや身体表現へと活動が発展しました。かぶの栽培にも取り組み、劇あそび「大きなかぶ」の発表や調理保育（ピザパイ作り）へと活動が広がりました。

##### ・【その他】

光と影の探究（太陽の位置と影の変化の観察、日時計あそびなど）。カタツムリやおたまじゃくしの飼育も実施し、生き物の成長や変化への興味を深めました。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

### 【しろ組：野鳥観察と巣箱設置】

園庭にやってくる鳥に興味を持った子どもたちが「どんな鳥が来るか考えて、自分たちで場所を決めたい！」と主体的に巣箱の設置場所を考えました。園庭MAPを広げながら「ここなら木の実があるから来そう」「木の上の方がいい」と話し合う姿が見られました。

### 【もも組：魚の探究、磁石・砂鉄の発見】

・魚への興味から、魚の姿や大きさを知る活動へ発展。「先生より全然大きい!」「みんなが並んでも足りないかも」と体験を通して魚の大きさや重さに気づいているようでした。  
・園庭で磁石を近づけると砂の中に小さな粒（砂鉄）が集まることを発見した子どもたちは「砂の中に鉄が入ってるの?!」と驚き、繰り返し試す姿が見られました。金属探知機を使った遊びでは、くつつくもの・くつつかないものの違いに気づきながら、身近な物の性質への関心を広げていきました。

### 【あか組：星・宇宙への探究】

星座を黒い画用紙に描く活動では、星と星を線でつなぎながら「こうやって絵になってるんだ」と発見する姿が見られました。

### 【2歳児：アゲハ蝶の飼育】

さなぎになると色が変わることに気づき「大丈夫かな?」と心配そうに様子を見守る姿が見られました。アゲハ蝶が羽化した瞬間には「出てきた!」と大興奮。生き物の成長の不思議や生命の大切さを感じることができました。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

昨年度に引き続き「自然」のテーマで活動を行うことで、子どもたちが前年度の経験を土台にしながさらさらに深い探究へと進む姿が見られました。園庭MAP（秋冬ver）の作成では、昨年の春夏版との違いを自分たちで発見するなど、継続的な活動がもたらす学びの深まりを実感しました。各クラスが子どもの「なぜ」「ふしぎ」を起点に全く異なる方向へ活動を発展させたことで、保育者にとっても子どもの興味・関心の多様さと、それに応じた環境デザイン的重要性を改めて感じました。また、プロジェクターや金属探知機、プラネタリウムなど新たな教材・備品を活用しながら、少しの工夫とアイデアで、子どもたちの驚きや好奇心が大きく広がることも確認できました。次年度も子どもたちの「なぜ」「ふしぎ」を大切にしながら、継続的かつ発展的な探究活動を続けていきたいと思います。